◆建設的な生き方へのお手伝い（ Just do it ! ）◆
（カウンセリングのことは当社までお問合せ下さい）
【今月の一冊】 100円のコーラを1000円で売る方法
永井孝尚 著　中経出版
ホームページ URL http://www15.ocn.ne.jp/~prime21/

発行日　2012年9月1日　Vol. 119
発行元　有限会社プライム・コーポレーション
代表取締役　渡 邉 敏 徳
〒401-0015 山梨県大月市大月町花咲147番地
TEL 0554-22-2810 FAX 0554-22-2859

『先進医療』～重粒子線がん治療

独立行政法人放射線医学総合研究所（放医研）は、１９５７（昭和３２）年の創立以来放射線と人々の健康に関わる総合的な研究開発に取り組む国内で唯一の研究機関として、放射線医学に関する科学技術水準の向上を目指して活動している組織です。

今、日本人は毎年１００万人強が死亡していますが、そのうち３４万人くらい、つまり、３人に１人ががんで亡くなっています。この死亡率は、世界トップレベルです。日本人が長生きになったことが理由です。がんは「細胞の老化」ですから、世界一の長寿国である日本は「世界有数のがん大国」になります。

がん治療において新しい放射線治療法として理論的に優れた性質を持つと期待され、世界初の『重粒子線がん治療施設』として１９９４年（平成６年）より臨床試験が開始され、その成果が実を結び、有効性、安全性が確認されたとして２００３年（平成１５年）１０月に“先進医療”の承認を受けました。

千葉市（稲毛）の研究施設にある重粒子線がん治療装置・ＨＩＭＡＣ（ハイマック）は、面積がサッカー場ほどにもなる巨大なマシーンです。治療照射室は３部屋しかないのですが、登録患者数は年間約７００人弱にもなります。

従来の放射線では十分な線量を照射することが難しい場所のがんや、外科治療では臓器の働きを残すのが難しいがん、または通常の放射線に対して抵抗力の強いがんに重粒子線の効果が有効とされます。特に早期の非小細胞肺がんの３年局所制御率は９０％を上回り、肝がんでは８０～９０％、前立腺がんではほぼ１００％と高く、高い治療実績を残しています。医学は日々どんどん進歩していることを見学してみて実感します。

１９９８年（平成１０年）私も父を肺がんで亡くしていますが、もう少し早くこんな治療法があったらと残念でなりません。日本にはたくさんの重粒子線や陽子線の治療施設ができています。私たちの身近にもっともっと最先端の治療施設ができることを期待したいと思います。

奇跡

東日本大震災から１年半が経ちます。自然の脅威にさらされた国土と心は未だ傷を負ったままです。宮城県の石巻と女川に行ってきました。地震と津波の傷はまだまだそのまま残っていました。道路は波打ち、歩道には草が生えたまま、石巻港には見渡す限りの瓦礫の山、そして山・・・。テレビで見ていた光景が次々に目に入ってきます。言葉もありません。こんなに月日が経っているのに何故？

私たちはこの災害から何を学んだのでしょうか。生き残った人達からこんな言葉が聞かれます。「こんなことが起きるなんて分かっていたら」・・・。大切な人を失った人は、もっともっといい思いをさせてあげられたのにとか、もっともっと楽しませてあげられたんじゃないか、もっともっと優しくしてあげられていたんじゃないか。そんなことを考えるそうです。

私たちが今、普通に生きていられるのは当たり前のことではなく、実は『奇跡』が毎日続いていることなんだと思うのです。生き物である限り、明日の朝も生きている保障なんて誰にもありません。毎日を後悔しないように生きていくことは、とても大変なことだと思いますが、「今を一生懸命に生きる」ということを実践し、せっかくこの世に生まれてきたことを大切にして生きていきたいと思います。今伝えたいことは今伝え、今出来ることは今するように、こんな小さなことから始めてみたいものですね。

【座右の銘にしたい名言】

人間は、自分が他人より劣っているのは能力のためでなく、運のせいだといいたがるものだ。　（プルタルコス）